

校訓	盡 己	令和7年度学校通信 「松中だより」 第6号	発行日	令和7年6月23日
教育目標	未来を創造し、たくましく生きる生徒の育成育成へ地域・家庭とのつながりによるレジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

【SEL（社会性と感情の学び）の授業】

6月19日（木）SEL（社会性と感情の学び）の授業を行いました。授業をしていただいたのは、鳥取大学教員養成センター准教授の石本雄真先生です。（本校卒業生）今回は、気持ち・感情について1年1組のみなさんと学習しました。学習内容は以下の通りです。

＜授業の目標＞

「自分の気持ちに意識を向ける」

「さまざまな感情に気づく」

＜内容（活動）＞

- ・いろいろな気持ちを表す言葉を考える
- ・その気持ちになった出来事を考え、発表する



＜趣旨＞

- ・気持ちを表す言葉を知らなければ、モヤモヤや興奮を言葉で表現できず、泣いたり暴れたりというだけの対処になってしまう。
- ・気持ちを表す言葉を知ることは、自分の気持ちを自覚し、適切な対処の第一歩となる（自己のコントロールが可能になる）
- ・気持ちに意識を向けることで、ただ気持ちに流されるだけでなく、気持ちと上手に付き合っていくことができる。
- ・「気持ちと上手に付き合っていく」とは、気持ちに流されていい結果に結びつかないことをしてしまうのを少なくすること。例えば、イライラして暴言を吐き、あとで後悔したり、恥ずかしくてもじもじしている間にチャンスを逃したり、緊張のあまり失敗したりすることを回避すること。

気持ちについて考えることで

気持ちと上手に付き合うことができ

人とも上手に付き合えるようになり

やがて将来の成功や幸福（ウエルビーイング）につながる

【沖縄慰霊の日】

6月23日は、「沖縄慰霊の日」です。沖縄県では80年前の戦争で、地上戦が行われ、日米併せて20万人がなくなりました。その沖縄戦が終結した日が6月23日です。広島、長崎に原爆が落とされた8月6日、9日、終戦の日の8月15日とあわせて、「日本が忘れてはならない4つの日」と言われています。最後の激戦地、摩文仁の丘の平和祈念公園では沖縄全戦没者追悼式が行われ、沖縄は深い祈りに包まれます。式典では「平和の詩」として以下の詩が朗読されます。今、世界各地で戦争が行われています。平和について考える1日にしてみませんか？

「おばあちゃんの歌」

豊見城市伊良波小学校6年 城間 一步輝(いぶき)さん

一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「空しゅう警報聞こえてきたら
今はぼくたち小さいから
大人の言うことよく聞いて
あわてないで さわがないで 落ち着いて
入って いましょう防空壕」

五歳の時に習ったのに
八十年後の今でも覚えている
笑顔で歌っているから
楽しい歌だと思っていた
ぼくは五歳の時に習った歌なんて覚えていない
ビデオの中のぼくは
あんなに楽しそうに踊りながら歌っているのに

一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「うんじゅん わんにん
艦砲ぬ くえーぬくさー」
泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かっていた
歌った後に
「あの戦の時に死んでおけば良かった」
と言うからぼくも泣きたくなった
沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして
生き残った人のことを
「艦砲射撃の食べ残し」
と言うことを知って悲しくなった

おばあちゃんの家族は
戦争が終わっていることも知らず
防空壕に隠れていた
戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが
戦車でひき殺されると思い出で行かなかった
手榴弾を壕の中に投げられ
おばあちゃんは左の太ももに大けがをした
うじがわいて何度も皮がはがれるから
アメリカ軍の病院で
けがをしていない右の太ももの皮をはいで
皮ふ移植をして何とか助かった
でも、大きな傷あとが残った
傷のことを誰にも言えず
先生に叱られても
傷が見える体育着に着替えることが出来ず
学生時代は苦しんでいた
五歳のおばあちゃんが防空壕での歌を歌い
「艦砲射撃の食べ残し」と言われても
生きてくれて本当に良かったと思った
おばあちゃんに
生きていてくれて本当にありがとうと伝えると
両手でぼくのほっぺをさわって
「生き延のびたくとう ぬちぬ ちるがたん」
生き延びたから 命がつながったんだね
とおばあちゃんが言った
八十年前の戦争で
おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った
その傷は何十年経っても消えない
人の命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように
おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく
おばあちゃんが繋いでくれた命を大切にして
一生懸命に生きていく

